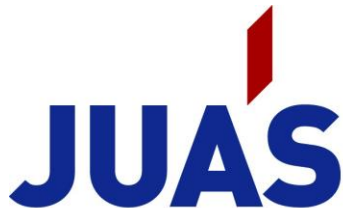


# JUASのご紹介と アジャイルへの思い

2015年4月



一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会  
Japan Users Association of Information Systems

# 一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)

産業活動におけるITの高度利用(経営革新を含む)に関する調査及び研究、普及啓発及び指導、情報の収集及び提供等を行うことにより、IT利活用の向上を促進し、もって我が国産業経済の発展に寄与することを目的とする。

## 沿革

1962年4月 日本データ・プロセッシング協会創立

1992年7月 社団法人 日本情報システム・ユーザー協会に拡充改組

2012年4月 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会

## 役員

理事40名 監事3名

会長 石原 邦夫 東京海上日動火災保険株式会社 相談役

## 事務局

専務理事 金 修

常務理事 浜田 達夫

常務理事 山田 信祐

所在地 東京都中央区日本橋堀留町1-10-11

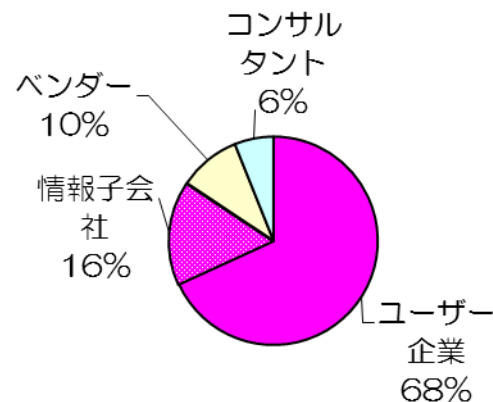
## 会員数(2014年6月1日現在)

正会員A :199社

正会員B :146社

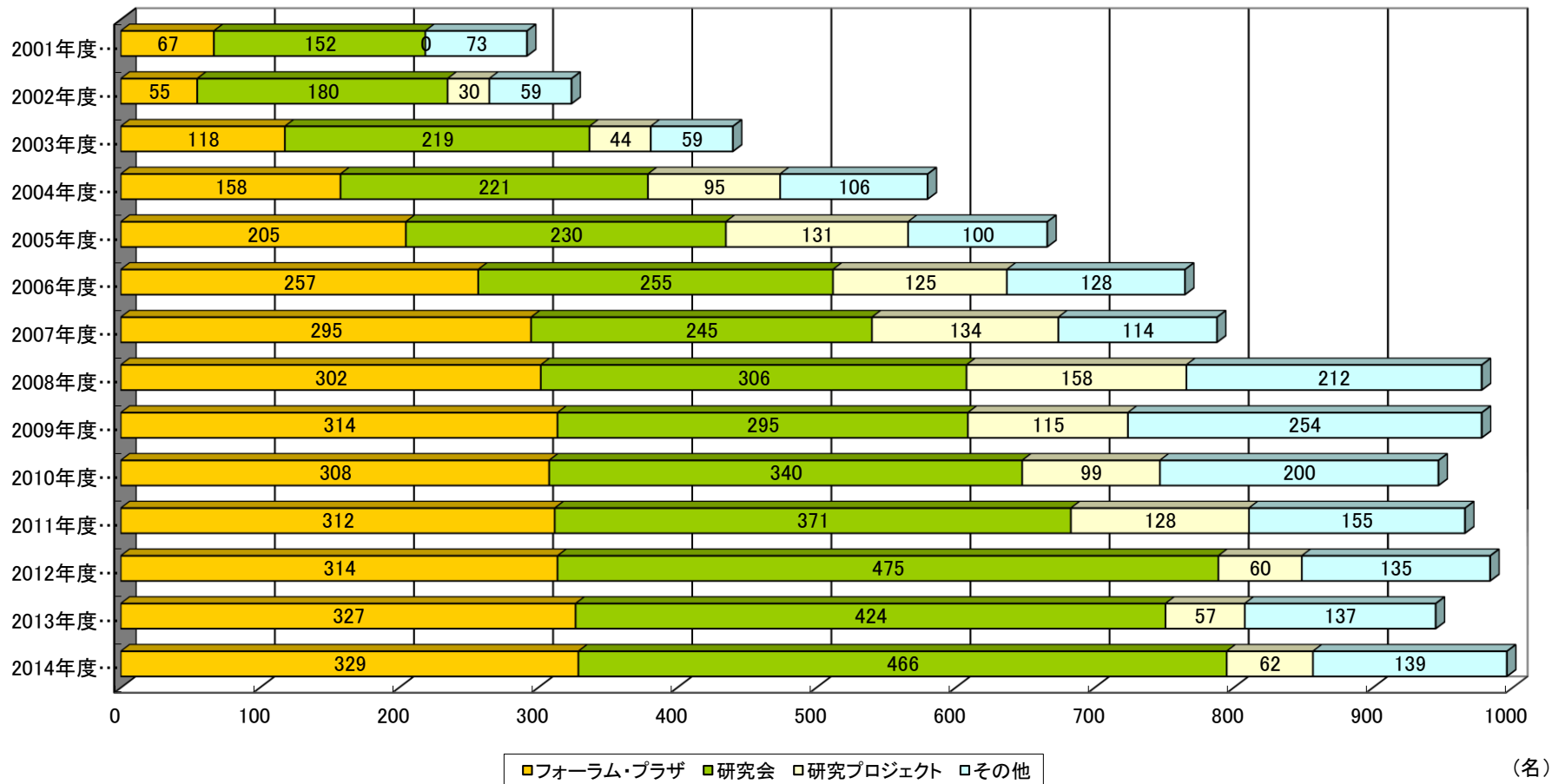
正会員C :2,182社

正会員企業の割合



# JUAS活動への参加人数の推移

JUAS研究活動参加者数推移



### 会員活動

#### フォーラム

- CIOフォーラム (3)
- IT部門経営フォーラム (5)
- IT企業TOPフォーラム (3)
- ITグループ会社経営フォーラム (3)
- グローバルフォーラム★

#### 関西支部

- IT部門経営フォーラム関西
- IT企業TOPフォーラム関西
- ITグループ会社経営フォーラム関西
- PARK2 (The place of advanced relationship in Kansai)★

#### 研究会

##### テーマ型研究会

- ITインフラ研究会
- ITサービスマネジメント研究会
- 企業リスクマネジメント研究会
- ビジネスプロセス研究会
- データマネジメント研究会
- 組織力強化研究会
- IT人材キャリア形成研究会

##### ケース型研究会

- ケース研究会
- ビジネスモデル研究会★

##### アドバンスト研究会

- 情報共有研究会
- サービスサイエンス研究プロジェクト
- Future' 20 競争優位・付加価値創出モデル研究会
- IT投資管理のありたい姿

#### 研究プロジェクト

- システム開発・保守QCD研究プロジェクト
- IT運用コスト研究プロジェクト★
- J I I P (Japan industry Innovation project)

#### 政策研究・調査

- CIO戦略フォーラム
- 攻めのIT投資評価指標

#### 調査事業

- 企業IT動向調査
- ソフトウェアメトリクス

#### 組織力強化普及・調査

#### セキュリティ・センター

- プライバシーマーク  
審査・認証

#### 会員研修会

- JUASアカデミー
- 関西アカデミー

イノベーション  
経営カレッジ  
(IMCJ)



#### 教育研修事業

オープンセミナー

新人・配転者セミナー

オーダーメイド研修

教材開発・出版

海外研修・調査

JUASラボ

JUASソリューションラボ  
JUASトレンドラボ

#### 公開事業

サマースクエア  
JUASスクエア  
JUAS FUTURE ASPECT

# システム開発保守QCD研究プロジェクト

JUAS研究プロジェクト

研究テーマ:システム開発における品質・コスト・工期・生産性についての評価の検討

## (1) 研究プロジェクト概要・方針

システム開発・保守における品質・コスト・工期・生産性についての評価の検討を行います。

## (2)開催日(12回、うち1回、合宿を予定しております)

2014年6月～2015年5月(6月より新メンバーで開始) 15:00～18:00 JUAS会議室  
全12回(第一火曜日を中心に開催を予定しております)

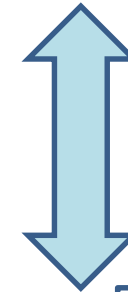
## (3)対象者

- ①JUASソフトウェアメトリクス調査の回答(開発・保守 各最低1プロジェクト)にご協力いただける企業・組織の方。
- ②JUASソフトウェアメトリクス調査の改編、分析等にご協力頂ける方
- ③年1回、自社の事例の発表(質疑応答含む40分程度)をいただける方 に限定させていただきます。

## (4)定員

40名

システム開発保守  
QCD研究プロジェクト



調査項目の議論  
結果分析に対する意見

調査回答

ソフトウェアメトリクス調査

- ・毎月5社からQCDに関する事例紹介
- ・1年でアジャイル5事例くらい
- ・ユーザー事例を共有して、実際のPJでの苦勞話、気づき、改善点を共有している
- ・各社のメンバーが知見を共有でき、大変有意義な活動となっている

# ソフトウェアメトリックス調査2015

今年度は、アジャイル型と超高速開発型に絞り、調査。  
ウォーターフォール型、U字開発型は、調査対象外とした。

## アジャイル型の設問 例

- ・プロジェクト特性、採用理由
- ・システム規模
- ・開発工期、スプリント回数、開発工数
- ・開発言語
- ・PMスキル
- ・管理手法(スクラム、XP、ユーザーストーリー、日次ミーティング他)  
(複数回答可)
- ・運用保守対応
- ・ドキュメント作成時期
- ・QCDのWFと比較しての評価
- ・ユーザ満足度
- ・技術者満足度
- ・開発チーム構成

## 採用理由(複数回答)

採用理由	アジャイル	
	件数	割合
工期短縮	19	67.86%
コスト削減	13	46.43%
操作性の向上	8	28.57%
バグの少なさ	1	3.57%
要員不足	1	3.57%
上司またはユーザーの指示	5	17.86%
開発者のモチベーション向上	5	17.86%
要件抽出が困難	9	32.14%
開発者のスキル向上	6	21.43%
新商品・サービスのプロトタイプ作成	4	14.29%
その他	10	35.71%

## WF型と比較した場合の評価・満足度

品質評価(Q)	高い	普通	低い	わからない
	12	14	1	1
	42.9%	50.0%	3.6%	3.6%
コスト評価(C)	安い	普通	高い	わからない
	11	10	5	1
	40.7%	37.0%	18.5%	3.7%
工期評価(D)	短い	普通	長い	わからない
	18	8	1	1
	64.3%	28.6%	3.6%	3.6%
ユーザー満足(US)	高い	普通	低い	わからない
	15	6	1	4
	57.7%	23.1%	3.8%	15.4%
技術者満足(ES)	高い	普通	低い	わからない
	13	12	2	1
	46.4%	42.9%	7.1%	3.6%



# 最後に

アジャイル開発は、優先度の高いサービスを早期に提供するという視点から、大変有用な開発手法だと思います。

日本のユーザー企業では、まだまだウォーターフォール開発が多くを占めていますが、様々な側面からアジャイル開発を推進をしていくことが重要だと考えております。

ユーザーの立場から考えると、「外部の協力会社(ソフト開発会社)との役割分担・契約方法」や「業務部門の開発プロジェクトへの参画度合」、「開発計画立案時の費用対効果の説明方法」など、これまでの成功事例の知見をまとめて共有し、発信していくことが重要と思います。

関係団体間での情報共有を行っていくことで、アジャイル開発がこれまで以上に発展することを期待しています。